



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日本沿岸に生息するネズミイルカPhocoena phocoenaの成長，成熟と食性〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	松井， 菜月
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(水産科学)
Dissertation Number	甲第14327号
Issue Date	2021-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/81832
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Natsuki_Matsui_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（水産科学）

氏名：松 井 菜 月

	主査 教授	高 津 哲 也	
	副査 教授	綿 貫 豊	
審査委員	副査 准教授	山 村 織 生	
	副査 教授	松 石 隆	（国際食資源学院）
	副査 教授	進 藤 順 治	（北里大学獣医学部）

学 位 論 文 題 目

日本沿岸に生息するネズミイルカ *Phocoena phocoena* の成長、成熟と食性

ネズミイルカは、沿岸にいる小型ハクジラ類で、定置網や刺し網で混獲されるなど漁業の影響を受けやすい。北半球に広く分布するが、日本沿岸では、北海道沿岸が主な生息域である。近年、北海道周辺など太平洋西側にいるネズミイルカは独立した亜種であると考えられるようになった。今後の保全のために、この亜種の生活史を明らかにする必要がある。そこで学位申請者は、みずから漂着・混獲したネズミイルカの標本を集め、その発見場所などの情報と標本、混獲個体に装着した衛星発信機による回遊追跡結果をもとに、この亜種の生活史の一端を明らかにした。

年齢査定結果より、はじめてこの亜種の成長曲線を推定し、メスが大きくなる性的二形があることを確認した。また、組織学的観察などをもとに、成熟年齢、成熟体長を明らかにした。さらに漂着場所の分布や衛星追跡の結果から、本州沿岸からオホーツク海や北方四島海域まで広く季節移動することが明らかになった。その中で、繁殖域が日本沿岸にないことも明らかになり、北方四島やロシア海域に繁殖域があることが示唆された。本研究で得られた北海道沿岸でのネズミイルカの知見を他亜種と比較するとともに、保全への寄与について考察した。本研究内容の過半は査読付き国際誌 *Aquatic Mammals* に 2 報の報文として受理されている。

本研究は、知見のほとんど無かったネズミイルカ北大西洋亜種について、はじめて標本を元に生活史パラメータを推定した点で、本種の保全への寄与が高い。よって申請者は、博士（水産科学）の資格があるものと判定した。